

ふれあひ

長田町 吉田 倫子

少女等の歌声交流韓国の会場に満つる歓迎の声

緊張の中に澄みたる子等の眼の指揮する私の指に集まる

ステージに客席の人駆け上り日本の少女に握手を求む

歌に乗せ心つながる合唱団異国の言葉で我らも歌ふ

カステラの上に塩辛マヨネーズ地層を学ぶ子等目を見張る

奨励賞を二篇とし、先ず吉田倫子の「ふれあひ」を推す。

一連は少女たちの合唱団を引率して韓国を訪れた作品。中でも二首目は秀逸で、「緊張の中に澄みたる子等の眼の」と印象的な把握で、その眼が我が「指に集まる」と捉えて卓抜。舞台上立つ少女たちと、指揮者である作者との絶対の信頼関係が暗示される。四首目「異国の言葉で我らも歌ふ」の醸す温かさ。コーラスを通して隣国との交流の、それも子どもたちによる懸け橋を思う。五首目は教職に携わる作者の職場詠であろうか。意外な教材が微笑ましく、作者の機知がそのまま作品の臨場感となっている。